

地誌調出役の現地調査行程

白井 哲哉

一 問題の所在

かつて私は旧稿「地誌調所編纂事業に関する基礎的研究」(以下、旧稿と略す)において、『新編武蔵国風土記稿』(以下、『武蔵』と略す)及び『新編相模国風土記稿』(以下、『相模』と略す)の編纂上の基本資料となった「地誌御調査上帳」を取り上げ、その成立過程や記載内容の変化等の検討を通じて地誌調所の活動上の画期を論じたことがある。その際は武蔵・相模の両国内に残る二〇点の「地誌御調査上帳」を表にまとめたが、本稿はその後に発見された史料を加えて、改めて地誌調出役の実施した現地調査の行程を跡づけようとするものである。

地誌調出役の現地調査を追求する理由は二つある。一つは、編纂側の史料に乏しい江戸幕府の地誌編纂事業の研究にとって、調査先の村々に残された数々の記録は貴重な情報の提供源であり、特に「地誌御調査上帳」など調査内容の記録は完成した地誌の記載を検証する材料として、たとえ断片と言えどおろそかにできないためである。

もう一つは、各地の記録を集積して現地調査の行程を解明することで、史料が未発掘の地域の調査時期を推定することが可能になり、今後新たな史料の発見が期待されるからである。したがって本稿では、旧稿の表を現地調査関連史料一覧として増補・改訂し、その結果から得られる若干の知見について述べていきたい。なお、武蔵国多摩郡、高麗郡、秩父郡と、相模国津久井郡は、地誌調出役ではなく八王子千人同心が調査を担当したので今回の検討の対象からは除外した。この点、御了承いただきたい。

二 各郡の草稿成立時期

地誌調所が編纂した地誌は国毎に作業が行われ、郡毎に草稿が作成されたのち、浄書本が作成された。そこで各郡の草稿の成立時期を『武蔵』『相模』の凡例から年代順に確認しよう。

- 文化 七年(一八一〇) 武蔵国久良岐郡(着手)〔編纂事業開始〕
- 八年(一一) 武蔵国新座郡(着手)
- 九年(一一) なし

- 文化一〇年（一三）なし
 - 一一年（一四）武蔵国都筑郡・荏原郡
 - 一二年（一五）なし
 - 一三年（一六）武蔵国橘樹郡
 - 一四年（一七）なし
 - 文政元年（一八）なし
 - 二年（一九）なし
 - 三年（二〇）武蔵国入間郡
 - 四年（二一）武蔵国比企郡
 - 五年（二二）武蔵国足立郡
 - 六年（二三）武蔵国埼玉郡・横見郡
 - 七年（二四）武蔵国大里郡・麩羅郡・男衾郡・榛沢郡・児玉郡・加美郡・那賀郡
 - 八年（二五）武蔵国葛飾郡
 - 九年（二六）武蔵国豊島郡
 - 一〇年（二七）武蔵国久良岐郡（改訂）・荏原郡（改訂）
- 訂
- 一一年（二八）武蔵国新座郡（改訂）・都筑郡（改訂）
 - 一二年（二九）なし
 - 天保元年（三〇）なし『武蔵』浄書本完成
 - 二年（三一）なし
 - 三年（三二）相模国高座郡

- 天保四年（三三）なし
 - 五年（三四）相模国三浦郡
 - 六年（三五）なし
 - 七年（三六）相模国足柄下郡
 - 八年（三七）なし
 - 九年（三八）なし
 - 一〇年（三九）相模国足柄上郡・愛甲郡
 - 一一年（四〇）相模国大住郡・洵綾郡・高座郡（改訂）
・三浦郡（改訂）
 - 一二年（四一）なし『相模』浄書本完成
- 右を一見してわかるのは、①『武蔵』の各郡の草稿は文政三年から九年にかけて集中的に作成されたこと、②それに対し『相模』は天保一〇年と一一年に集中して草稿が仕上げられていること、である。ここでは『相模』の編纂作業の進捗に若干の偏りが見られることに注目しておきたい。

三 地誌調出役の調査実施時期

次に卷末の表「地誌調出役現地調査関係史料一覧」を検討しよう。まず判明している限りで各郡の現地調査時期を左にまとめた。なお、ここでは旧稿で指摘した江戸府内の現地調査等も含めている。

- ◇文化一一年 武蔵国橘樹郡
- ◇一四年 武蔵国入間郡・足立郡^②

- ◇文政 元年 武蔵国入間郡
- ◇ 二年 武蔵国足立郡
- ◇ 三年 武蔵国足立郡・埼玉郡・久良岐郡
- ◇ 四年 武蔵国埼玉郡・比企郡・大里郡
- ◇ 五年 武蔵国幡羅郡・男衾郡・榛沢郡・児玉郡・加美郡・那賀郡
- ◇ 六年 武蔵国葛飾郡・豊島郡・久良岐郡
- ◇ 七年 武蔵国久良岐郡、相模国鎌倉郡・高座郡
- ◇ 八年 相模国高座郡・三浦郡・愛甲郡・大住郡、江戸府内
- ◇ 九年 相模国高座郡・愛甲郡、江戸府内
- ◇ 一〇年 江戸府内
- ◇ 一一年 江戸府内
- ◇天保 二年 相模国高座郡
- ◇ 四年 相模国足柄下郡
- ◇ 五年 相模国足柄下郡・足柄上郡・大住郡・洵綾郡
- ◇ 六年 相模国愛甲郡・大住郡

右からわかることにつき、旧稿で既に指摘したことを含めてもう一度整理すると次のようになる。①『武蔵』はおおむね南から北へ向かって調査が進められ、最後に江戸近郊の豊島・葛飾両郡を調査したこと、②最初に草稿が成立した久良岐郡の場合、その後他郡の調査の間をぬうように現地調査が実施されたこと、③武蔵国内の調査が終了した直後から、『武蔵』の完成を待たずして相模国内

の現地調査が始まっていること、④江戸府内の現地調査が本格化する文政九年以降、相模国の現地調査は一時中断し、天保二年に再開すること、⑤管見の限りで、相模国の現地調査は天保六年頃に終了したと思われること。

三 若干の考察

ここで草稿の成立時期と現地調査の行程を比較検討すると、次のことが明らかになる。

まず『武蔵』の各郡の草稿は、現地調査の終了後に一年以上の編集期間において成立している。この点、あるいは調査終了後二年で草稿を完成させる計画であったとも思われるが、文政四年に原稿が成立した比企郡では同年二月に現地調査を行っている^③。

これに対して『相模』の場合、現地調査は文政七年に始まり途中中断の時期を是んで天保六年にほぼ終了したと思われるが、大半の草稿は天保一〇年から一一年にかけて成立しており、『武蔵』に比べ作業の進捗が大幅に遅れたとの印象を否めない。また、今のところ天保八年と九年には顕著な活動の形跡が見られないが、これが事業の停滞を示すのか否かは不明である。

『武蔵』と『相模』の間に作成された『御府内備考』は成立時期が明らかではないが、文政八年から一一年の間に調査が実施されている。但し編纂の実態としては、当初は『新編武蔵風土記稿』府内編として草稿が準備されていたものが、結果的に資料集的な『御府

内備考』に結実した経緯があり、なお調査を必要としている。

次に、現地調査の具体的な様子について少し見ていこう。

文政七年八月の鎌倉郡城廻村宗久寺明細帳の末尾には次の一文が見られる。

一 今般鎌倉誌依再判而、林大学殿用人筆役朝岡伝右衛門殿・村

井専之助殿・渡内左平太殿・内川戸嘉助殿、名主長右衛門殿

案内二而当月七日入来、御朱印之写・御弁当箱・什宝不残見

覧、外二ほらかる二ツ境内之山後法螺谷より出産之趣、記帳

有是也、

地誌調所からの来訪者として記される四人のうち、朝岡伝右衛門と

村井専之助は地誌調出役として『武蔵』や『相模』の担当者一覧に

その名が記されるが、渡内左平太と内川戸嘉助の名は管見の限り初

出である。旧稿でも触れたとおり地誌調出役には数人の供が同行し

た。渡内と内川戸は供と思われるが、『相模』にも名の見えないこ

とから地誌調所の正式な構成員ではないと言える。

さて、一回の調査期間はおおむね数週間から一ヶ月程度だった。

例えば武蔵国男衾郡の場合、出発前日に次の先触が出された。⁶⁾

一 賃人足

六人

内 駕籠

四人

両掛

三人

此度地誌調為御用、明七日期五ツ時江戸表出立、男衾郡へ罷
越候二付、其筋罷通り候間、書面之人足無滞可被継立候、渡

船場有之場所ハ前後宿村申合、差支無之様可被取計候、此先
触早々順達、留り村方着之節可被相返候、已上、

林大学頭手附

地誌調御用出役

内山孝之助

小野太郎右衛門

上板橋より川越通り男衾郡野原村迄

右宿村

役人中

七日 大井町 八日 松山町 九日 野原村

右之通り止宿致候間、上下四人之旅宿用意可有之候、已上、

日付がないが、文政五年九月六日に出された先触である。二人の出

役は二人の供を連れて、二泊三日で野原村（現江南町）へ赴いたこ

とがわかる。野原村は男衾郡の東端にあたるが、巻末の表によれば、

一二日には畠山村（現川本町）から「地誌御調書上帳」を提出させ

ているので、西へ向かつて調査を進めたと言える。さらに、二三日

には榛沢郡荒川村（現花園町）に「地誌御調書上帳」の案文が届い

ており、引き続き榛沢郡の調査を実施している。この間、一〇日は

どで男衾郡三四か村の調査を実施したことになる。

四 おわりに

以上、現在までの知見に基づき地誌調出役の現地調査の概略を述べてきた。今後関係史料の発見される可能性は高く、本稿で指摘した問題点等の解明に向けてさらに史料を収集していきたい。読者各位の御教示をお願いするところである。

- (1) 『関東近世史研究』二七(一九九〇)に掲載。
- (2) 文化一四年の記事は巻末の表にないが、旧稿で史料紹介した入間郡今市村の記録の中に先触の写がある。
- (3) 旧埼玉県史第六卷(一九三七)、四三四頁、ほか。
- (4) 拙稿『新編武蔵国風土記稿』と『新編相模国風土記稿』(地方史研究協議会編『地方史事典』弘文堂、一九九七、所収)。
- (5) 『鎌倉市史』近世史料編第一、一五一頁。
- (6) 杉田家文書(埼玉県立文書館収蔵)、No.一四九。

地誌調出役現地調査関係史料一覧

No	年月日	郡	村	史料名	出役名	備考	出典
①	文化11.4/17	橋	生	日記附込帳	石川礼助	内山清藏	『関口日記』第2巻
②	文化15.2/25	入	今	地誌御調方記録	〃	築山茂左衛門	東京大学法制史資料室所蔵文書(杉本史子氏による)
③	文政元.8/18	〃	中	此度地誌調石川礼助様内山孝之助様御廻村御改二付村役入左二奉申上候記録	〃	内山孝之助	『入間市史』近世史料編
④	文政2.2/	立	加	為地誌御調早川礼助様廻村御改控帳	〃	井上彦右衛門	『蒲川市史』4
⑤	文政3.4/1	久良岐	磯	武州入良殿郡磯子村役人磯右衛門より林大学頭御手代衆御廻村二付書上候下書控	〃	上下2ヶ村・舎人新田共	『横浜市史稿』地理編
⑥	〃.4/18	立	室	村方明細帳	石川礼助	井上彦右衛門	『武蔵国村方明細帳集成』
⑦	〃.4/	足	大	武州埼玉郡村々地誌御調御用二付林次大学頭様御手附築山茂左衛門様小野太郎右衛門様御出役二付鷲宮御宿江上候書付覚	小野太郎右衛門	鷲宮宿泊、鷲宮宿・川口・大桑共	『鷲宮町史』史料一近世
⑧	〃.10/	足	立	〃	朝岡彦右衛門、井上彦右衛門、小野太郎右衛門	〃	旧埼玉県史第6巻
⑨	〃.11/2	埼	西	地誌御調御札	小笠原新次郎	古山勝次郎	『地方史研究』95(小沢正弘論文)

No	年月日	郡	村	史料名	出役名	備考	出典
⑩	文政4.2/8	比企	八ツ野	村方古物改口上書写	井上彦右衛門	長福寺調査	旧埼玉県史第6巻 『嵐山町誌』
⑪	〃.2/15	〃	〃	〃	〃	平・野田・大谷・水房・菅・伊子・太郎丸・中尾・福田・越畑共	〃
⑫	〃.8/3	大里	種口	(年貢割付状写断簡)	内山孝之助	熊谷宿8/3泊	平山家文書(埼玉県立文書館収蔵)
⑬	文政5.2/14	埼玉	粕壁宿	御尋二付書上帳	小野太郎右衛門	寺院1ヶ寺外書上、百姓2名由緒書上	『春日部市史』近世資料編II、IIIの1
⑭	〃.2/22	〃	西方	旧記五	小野太郎右衛門	越ヶ谷宿2/20泊、西方村2/21泊	『越谷市史』続資料編(2)
⑮	〃.2/	〃	大増新田	地誌調御用村方書上帳	小野太郎右衛門	上下2ヶ村	『春日部市史』近世資料編IV
⑯	〃.8/4	旗羅	下奈良	地誌調御用書上留	朝岡伝右衛門	奈良・新嶋共	吉田(市)家文書(埼玉県立文書館収蔵)
⑰	〃.8/5	〃	中奈良	地誌調二付村方取調帳	〃	中奈良村8/4泊、葛和田村8/5~6泊	野中家文書()
⑱	〃.8/11	〃	江袋	地誌御改案文	〃	〃	長島家文書()
⑲	(〃).8/18	〃	大田	御先触	()	〃	掛川家文書(国立史料館所蔵)
⑳	〃.9/9	男衾	野原	林大学願手附出役地誌調先触写	内山孝之助	〃	杉田家文書(埼玉県立文書館収蔵)
㉑	〃.9/12	荒川	島山	差上申巨細書	()	〃	『町史編さん調査報告書』2(川本町)
㉒	〃.9/23	榛沢	北川	(林大学預備地誌村々御調取添案文)	古山勝次郎	〃	掛田(英)家文書(埼玉県立文書館収蔵)
㉓	〃.11/16	児玉	北堀	地誌御調書上帳	〃	〃	『本庄市史』
㉔	(〃).11/19	〃	上稲沢	記録	〃	八幡山町泊	『児玉町史料調査報告』5
㉕	〃.11/19	〃	八幡山町	地誌御調書上帳	〃	〃	『児玉町史』近世資料編
㉖	〃.11/23	〃	飯倉	乍想以書付奉申上帳(地誌御調二付古書所持家御用)	〃	〃	〃
㉗	〃.11/	〃	下野堂	地誌御調書上帳	〃	〃	『本庄市史』
㉘	〃.11/	〃	西五十子	明細書上帳	〃	〃	浅見家文書(埼玉県立文書館収蔵)
㉙	〃.11/	〃	下阿久原	村内明細帳	〃	〃	俣田家文書()
㉚	〃.11/	〃	四間在家	地誌調書帳	〃	〃	松原家文書()
㉛	〃.12/3	那賀	古郡	地誌御調書上帳	〃	〃	『武蔵國村明細帳集成』
㉜	〃.12/	賀美	肥土	武州賀美郡肥土村地誌調書上帳之写	〃	〃	『神川町誌』資料編
㉝	文政6.4/	葛飾	平須賀	(地誌御調書上帳写)	小野太郎右衛門	〃	船川家文書(埼玉県立文書館収蔵)
㉞	〃.5/	〃	幸手宿	御尋二付書上帳	〃	〃	『幸手市史』近世資料編工
㉟	〃.7/	〃	幸房	(幸房村村名由緒覚)	朝岡伝右衛門	右馬之助町中村家由緒書	『三郷市史』2
㊱	〃.8/	〃	大勝	地誌取調書上帳	〃	〃	〃
㊲	〃.8/	〃	原砂	地誌御調御用二付村方明細書記之帳	〃	〃	『中基家文書』

No	年月日	郡	村	史料名	出役名	備考	出典
38	文政6.9/	葛飾	笹ヶ崎	地誌御調御取調書上帳	井上彦右衛門		『須原家文書』1 宇田川家文書(樋口政則氏による)
39	〃 .9/	〃 葛	桑川	地誌御調書上帳	〃	竹下新田・上石神井・下石神井・上支田・田中・谷原・中村・中荒井共	郷土研究史料第11輯(練馬郷土史研究会)
40	〃 .9/	〃 葛	関	地誌調写置	〃		『近世練馬諸家文書抄』
41	〃 .10/	〃 葛	支田	地誌調御改書上帳	〃		『練馬市史稿』地理編
42	〃 .11/	〃 久良岐	上大岡	地誌御調書上帳	内山孝之助		『神奈川地域史研究』7(拙稿)
43	〃 .11/	〃 久良岐	堀之内	村方地名書上帳	〃		郷土研究史料第11輯(練馬郷土史研究会)
44	〃 /	〃 葛	上練馬	地誌調書上帳	〃		『葛飾区古文書目録』(二)
45	〃 /	〃 葛	青戸	地誌調御尋取調書上帳	〃		『横浜市史稿』地理編
46	(〃 /)	〃 久良岐	瀧谷	御書上帳	内山孝之助	史料は慶応4年と書くが誤り 出典は天保7年とするが誤り	『鎌倉市史』近世史料編第2
47	文政7.4/	〃 葛	長瀬	師子吼山清浄泉寺高德院書上帳	朝岡伝右衛門		『鎌倉市史』近世史料編第1
48	〃 .5/15	〃 葛	扇ヶ谷	相州鎌倉郡扇ヶ谷村地誌調書上帳	小笠原新次郎 岩崎助次郎		『鎌倉市史』近世史料編第2
49	〃 .5/23	〃 葛	小町	書上	岩崎助次郎	妙隆寺明細帳	『鎌倉市史』近世史料編第2
50	〃 .5/24	〃 葛	大町	(祇園天王社明細帳)	小笠原新次郎 内山孝之助		〃
51	(〃 .5/24)	〃 葛	〃	境内地調聖堂江書上之写	岩崎助次郎	妙法寺明細帳	〃
52	(〃 .5/24)	〃 葛	〃	安養院起立訳書	〃		〃
53	(〃 .5/24)	〃 葛	〃	(大宝寺明細帳)	〃		〃
54	〃 .5/28	〃 葛	村岡郷	村岡郷五ヶ村地誌調書上帳写	岩崎助次郎	渡内・高谷・弥勒・小塚・宮前	『藤沢市史料編』11
55	〃 .5/	〃 葛	津島	(東漸寺明細書上)	小笠原新次郎		『鎌倉市史』近世史料編第2
56	〃 .5/	〃 葛	羽城	地誌御調書上帳	朝岡伝右衛門	9月カ	『藤沢市史料集』11
57	〃 .8.7	〃 葛	瀬岩	(久成寺明細帳)	〃	他2名同行	『鎌倉市史』近世史料編第2
58	〃 .8/13	〃 葛	〃	大長寺并未寺由緒地誌御調二付書上控	〃		〃
59	〃 .8/13	〃 葛	〃	林大学頭様御改地誌御調書上帳控	〃	岩瀬村 8/13~14泊 今泉・公田・桂共	『鎌倉市史』近世史料編第1
60	〃 .8/20	〃 高倉	西谷	地誌御調書上帳写	〃		『藤沢市史料集』11
61	〃 .8/	〃 高倉	小袋谷	亀甲山成福寺日記	井上彦右衛門	上下4人	『鎌倉市史』近世史料編第2
62	〃 .8/	〃 高倉	永谷上	地誌御調書上帳	水野丈之助		『永谷郷土誌』
63	〃 .8/	〃 高倉	瀬谷	地誌御調御取調簡條写	〃		『神奈川県史資料所在目録』44
64	〃 .9/24	〃 高倉	柳嶋	地誌御調二付書上	小野太郎右衛門		『茅ヶ崎市史』1
65	〃 .9/24	〃 高倉	田端	相模国高座郡田端村房出帳	古山勝次郎		『寒川町史』1
66	〃 .9/26	〃 高倉	山宮	林大学様御役人御廻見村鑑控	〃	小谷村 9/26泊	〃

與謝驢田役の現地調査行程

No	年月日	郡	村	史料名	出役名	備考	出典
⑥	文政7.9/27	高座	中野	地誌御用林大学様御詔人御巡見書 出案文帳			『海老名市史資料所在目録』第2集
⑥8	〃 .9/	〃	岡田	地誌御調差出帳	小野太郎右衛門		『栗川町史』1
⑥9	文政8.3/15	三愛	三崎	書上帳	猪飼次郎太郎	寺院書上	『神奈川県古文書資料所在目録』第11集
⑦0	〃 .3/18	〃	林	(表題ナシ)	河内(?)	寺院分あり	『厚木市史史料集』(4)
⑦1	〃 .3/19	三浦	須軽	地誌取調書上帳写	猪飼昌次郎	飯飼(猪飼カ)	『相州三浦郡須軽谷村(鈴木家)文書』
⑦2	〃 .3/	〃	桜山	相模国三浦郡桜山村取調書上帳	猪飼昌次郎	内山孝之助	『逗子市史』資料編1
⑦3	〃 .3/	〃	久野	地誌御調書上帳			〃
⑦4	〃 .4/	〃	大津	〃		5ヶ寺分書上	『廣須賀文化財協会会報』5
⑦5	〃 .5/5	高座	福田	地誌調書上帳	朝岡伝右衛門		『大和市史』4
⑦6	〃 .5/7	〃	深谷	地誌調御用書上帳	〃		『比留川家文書(高橋之好氏による)』
⑦7	〃 .5/28	大住	下日	地誌調案文字	猪飼昌次郎	下糟屋村神宮寺 5/28泊	『能条家文書(原和之氏による)』
⑦8	〃 .5/28	〃	槽屋	地誌調案文写	〃		『守屋家文書(原和之氏による)』
⑦9	〃 .5/	〃	日向	地誌調書上帳	〃		『平塚市史』2
⑧0	〃 .5/	〃	新土	地誌調書上帳	〃		〃
⑧1	〃 .5/	〃	平塚	地誌取調書上帳	〃		〃
⑧2	〃 . /	三浦	下沼	地誌惣取調案文差上申候 御取調帳			〃
⑧3	〃 . /	〃	沼間	御取調帳			『逗子市史』資料編1
⑧4	〃 . /	〃	下宮	(下宮田村地誌取調書上帳)			『神奈川県史研究』39(青山孝慈論文)
⑧5	文政9.2/17	高座	深田	村方取調帳	朝岡伝右衛門	2冊	『大和市史』4
⑧6	〃 .2/22	〃	見名	村方地誌調書上帳控	〃	上下6人	『相模原市史』5
⑧7	〃 .2/	〃	下名	地誌調御用書上	〃		〃
⑧8	〃 .2/	〃	上今	(地誌調案)	〃		『海老名市史資料所在目録』第1集
⑧9	〃 .2/	〃	湖泉	地誌御用 御書上帳	〃		『相模原市史』5
⑨0	〃 .2/	愛甲	之田	地誌御用 御調書上帳	猪飼次郎太郎	寺院3ヶ寺分書上	『厚木市史史料集』(4)
⑨1	〃 .2/	〃	妻田	〃	〃		〃
⑨2	〃 .3/	〃	温水	地誌御調書上帳	内山孝之助		『厚木市史』資料編杜寺
⑨3	〃 .3/	〃	七沢	大倉山広沢寺(書上)	〃	寺院書上	『神奈川県史資料所在目録』35
⑨4	〃 .3/	〃	半原	地誌御用 御調書上帳	〃		『神奈川県古文書資料所在目録』第11集
⑨5	〃 .3/	〃	中野	〃	〃		『厚木市史史料集』(4)

No	年月日	郡	村	史料名	出役名	備考	出典
⑨⑤	文政9. /	愛甲	八音山	地誌御調書上帳		八音山光勝寺坊中惣代書上	内閣文庫
⑨⑦	天保2.10/	高座	座間宿・入谷	地誌御調書上帳	朝岡伝右衛門	2ヶ村分	『座間市史資料所在目録』第3集
⑨⑧	天保4.10/	足柄下	土肥吉浜	神社敷調書上帳		神社書上	『湯河原町史』1
⑨⑨	〃 10/	〃	土肥鍛冶屋	神社地誌御調書上帳		神社書上	〃
⑩①	〃 10/	〃	福浦	地誌御調書上帳	朝岡伝右衛門	寺院書上	〃
⑩②	〃 10/	〃	岩	御調書書上帳	〃	寺院書上	『神奈川県史』資料編5
⑩③	〃 11/	〃	別堀	地誌御調書上帳	内山孝之助		『小田原の近世文書目録』3
⑩④	〃 11/	〃	高田	〃	〃		『小田原の近世文書目録』4
⑩⑤	〃 11/	〃	曾我谷津	〃	桜井久之助	寺院書上	『小田原の近世文書目録』2
⑩⑥	〃 /	〃	風府	御上書之控	内山孝之助	〃	『神奈川県史』資料編5
⑩⑦	天保5.2/5	〃	川台	地誌御調書上帳写	小笠原藤右衛門	絵図あり	『小田原の近世文書目録』3
⑩⑧	〃 3/14	〃	小正	地誌御調書上帳	内山孝之助		『小田原の近世文書目録』4
⑩⑨	〃 3/	〃	蓮正	地誌御調書上帳	内山孝之助		『南足柄の村明細帳』上
⑩⑩	〃 3/	〃	飯上	〃	小笠原藤右衛門		〃
⑩⑪	〃 4/	〃	刈野一色	〃	朝岡伝右衛門		〃
⑩⑫	〃 4/	〃	狩野	〃	浜中三平		〃
⑩⑬	〃 4/	〃	千津嶋	〃			〃
⑩⑭	〃 5/	〃	金子	〃			〃
⑩⑮	〃 5/	〃	鬼柳	地調認帳	(内山孝之助)	寺院書上か	明治大学刑事博物館所蔵文書
⑩⑯	〃 5/	〃	塚下	(表題ナシ)	中尾篤太郎	3冊	『神奈川県史』資料編5
⑩⑰	〃 8/	〃	沢	地誌御調書上帳	朝岡伝右衛門		『小田原の近世文書目録』3
⑩⑱	〃 8/	〃	蒲	地誌御調書帳	〃		『南足柄の村明細帳』下
⑩⑲	〃 8/	〃	篠窪	地誌御調書上帳	猪飼次郎太郎		『神奈川県史』資料編5
⑩⑲	〃 8/	〃	土佐原	〃	〃		『秦野市史』近世史料編1
⑩⑲	〃 8/	〃	田	地誌取調の折大小ノ絵図	朝岡伝右衛門	絵図のみ	『神奈川県史資料所在目録』21
⑩⑲	〃 8/	〃	沼	地誌御調書上帳写	〃		『神奈川県史資料所在目録』12
⑩⑲	〃 8/	〃	鴨	地誌御調書上帳	朝岡伝右衛門		『県史編集室所蔵資料目録』2
⑩⑲	〃 9/27	洵	万	地誌御調ニ付差出候写書	猪飼次郎太郎		『蘆田伊入文庫(明治大学図書館所蔵)』
⑩⑲	〃 9/	〃	中山	地誌御調書上帳	内山孝之助	神社書上か	『平塚市史資料所在目録』(土沢・旭地区)
⑩⑲	〃 9/	〃	〃	〃	〃		『神奈川県史資料所在目録』20
⑩⑲	〃 9/	〃	〃	〃	〃		『神奈川県史資料所在目録』補遺5

地誌調出役の現地調査行程

No	年月日	郡	村	史料名	出役名	備考	出典
120	天保5.9/	大住	下吉沢	地誌御調書上帳	内山孝之助		『平塚市史』3
121	〃 .10/	〃	松延川	〃	古山勝五郎(?)		〃
122	〃 .10/	〃	広福	〃			〃
123	〃 /	足柄上	泉代	地誌調書上帳			『南足柄市史』2
124	〃 /	足柄下	千真	〃			『小田原市史』資料編近世II
125	天保6.2/	大住	田嶋	地誌御取調書上下帳控江	朝岡伝右衛門		『平塚市史』3
126	〃 .2/	〃	飯沢	地誌御取調書上帳	()		〃
127	〃 .2/	〃	決善	〃	()		『秦野市史』近世史料編1
128	〃 .2/	〃	提野	〃	〃		〃
129	〃 .2/	〃	善根	〃	〃		〃
130	〃 .2/	〃	羽根	〃	〃		〃
131	〃 .2/	〃	寺毛	〃	〃		〃
132	〃 .2/	〃	蓑北	〃	〃		〃
133	〃 .2/	〃	矢名	〃	〃		〃
134	(.2/)	〃	南矢名	〃	〃	村絵図あり	〃
135	〃 .3/25	愛甲	上落合	寺院御調書上帳	内山孝之助	附近5ヶ村寺院書上	『厚木市史』資料編社寺
136	〃 .3/	大住	温日向	磐打ひじり由緒書			〃
137	〃 .3/	〃	水向	寺院取調書上帳	内山孝之助	寺院書上	『淨苑願寺文書(原和之氏による)
138	〃 .8/)	〃	上槽	地誌取調帳	〃		〃
139	〃 .4/	〃	屋内	地誌御調書上帳之控	朝岡伝右衛門	文化14「用留帳」	『伊勢原市史資料所在目録』3
140	〃 .4/	〃	坪ノ内	寺院御調書上帳	〃	寺院書上	山口家文書(原和之氏による)
141	〃 .4/	〃	西富岡	神社寺院 地誌御調書上帳控	内山孝之助	3点	小泉家文書(原和之氏による)
142	〃 .4/)	〃	〃	地誌御書上帳	〃		堀江家文書(神崎彰利氏による)
143	〃 .4/	〃	西海	地誌御調書上帳	朝岡伝右衛門		『平塚市史』2
144	〃 .4/	〃	地幡	相模国大住郡落幡村地誌御調帳	内山孝之助		『秦野市史』近世史料編1
145	〃 .4/	〃	落幡	地誌御調書上帳	朝岡伝右衛門		『秦野市史』2
146	〃 .4/	〃	城所	地誌御調書上帳	朝岡伝右衛門	寺院書上、絵図あり	『伊勢原市史資料所在目録』3
147	〃 .5/	〃	三之宮	〃	渡瀬龍之助		〃
148	〃 .9/	〃	上沼	〃	浜中三平		『伊勢原市史資料所在目録』3
149	〃 .9/	〃	谷目	〃	〃		〃
150	〃 . /	〃	石田	地誌御調書上帳写	小笠原藤右衛門	寺院書上	竹内家文書(原和之氏による)
151	〃 . /	〃	〃	〃	〃		『具史編集室所蔵資料目録』2